

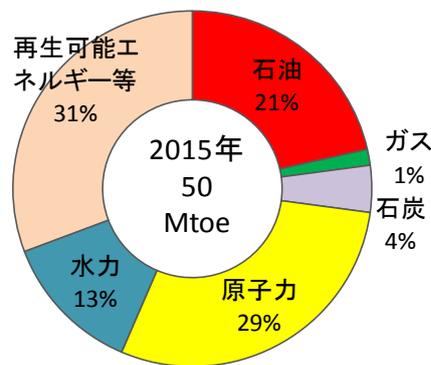
2-6 スウェーデン

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2015年) : 50 百万 toe (日本の 0.11 倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 (2015年) : 5.12toe (日本の約 1.49 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2015年) : 75%
- (4) エネルギー起源 CO₂排出量 (2014年) : 37.4 百万 CO₂換算 ton(日本の 3.1%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂排出量 (2014年) : 3.86CO₂換算 ton (日本の 41.3%)
- (6) エネルギー別可採年数 (2015年末) : 原油 N/A、天然ガス N/A、石炭 N/A、ウラン N/A

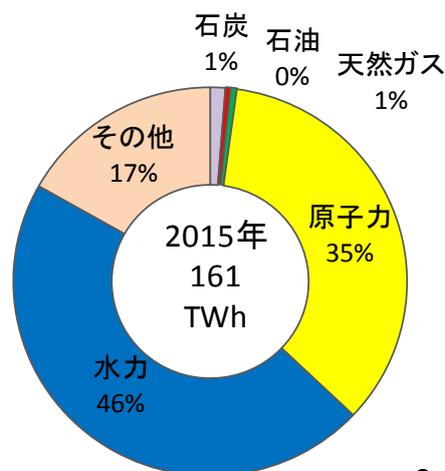
一次エネルギー供給構成 (2015年)



Country: Sweden

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電量構成 (2015年)



Country: Sweden

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

2. エネルギー政策

(1) エネルギー政策担当機関

- スウェーデンのエネルギー政策機関は「環境・エネルギー省 (Ministry of the Environment and Energy)」で、「エネルギー」大臣は Ibrahim Baylan が務める。

(2) 基本政策

- スウェーデンのエネルギー政策の基本は、環境・健康への影響を最小限とすると同時に持続可能な社会に向け、国際競争力を確保しながら、安定的なエネルギー供給を確保していくことにある。EU の 2009 年再生可能エネルギー指令に基づき、一次エネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合を 2020 年までに 50%とする目標を掲げている。

(3) 最近の動向

- 2016 年 6 月、政府は与野党合意により、出力に応じて課せられている原子力発電税の段階的廃止を決めた。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- スウェーデンはエネルギーの純輸入国であり、2016 年 6 月現在、我が国とのエネルギー貿易は行われていない。
- 日・スウェーデン科学技術協力協定 (1991 年署名) に基づき、2016 年までに計 6 回合同委員会が開催されている。2016 年 2 月に東京で開催された第 6 回委員会では、双方の現況について紹介された他、科学技術・イノベーション政策の進捗状況、「生命科学」、「高齢化社会」、「環境/農業・森林及び気候変動」、「極地研究」といった主要な分野別協力並びに「科学技術イノベーション協力の枠組み」について意見交換が行われた。
- 原子力産業分野では日本とスウェーデンは密な協力関係にある。原子力発電環境整備機構と SKB (スウェーデン核燃料・廃棄物管理会社: 別紙) は高レベル放射性廃棄物処分に関する技術協力協定を 2001 年 9 月に締結している。また両国の電力会社間でも、同型の炉を有することから相互に情報交換が行われている。

2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Sweden

(2015年)

(1) 一次エネルギー供給量		50 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		5.12 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.09 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		75 %
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量(2014年)		37.4 百万CO ₂ 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量(2014年)		3.86 CO ₂ 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	4 %
	石油	21 %
	天然ガス	1 %
	原子力	29 %
	水力	13 %
	再生可能エネルギー等	31 %
(8) エネルギーの輸入依存度		25 %
(9) 石油の輸入依存度		100 %
(10) 輸入原油の中東依存度		0.8 %
(11) 原油の輸入先	第1位	ロシア
	第2位	ノルウェー
	第3位	デンマーク

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA

(10)～(11) : Oil Information 2016, IEA